

水源地の森林づくりと

民有林との連携

地域課題の解決に向けた取組

空知森林管理署

北空知支署

石狩川流域雨竜川の上流部に位置する朱鞠内湖は、人造湖としては日本一の広さを誇ります。

湖には幻の魚であるイトウが棲息し、冬にはワカサギ釣り、夏にはキャンプや登山などの観光客が利用するなど、豊かな生態系と観光資源を有しています。

一方で、この地域は日本有数の極寒かつ豪雪地帯であることに加え、悪条件の土壌が分布することから「緑のダム」であ



朱鞠内湖上流域の造林地

る水源地の森林が劣化しやすく、無立木地化した場所が多くみられます。

そのため、朱鞠内湖上流域では、地形や土壌など環境条件に適した森林づくりを行い、無立木地を良質な水源地に再生させることが課題となっています。

朱鞠内湖上流域の森林づくり

森林づくりを進めるにあたり、広葉樹の天然更新を期待しつつ、更新補助としてアカエゾマツの植栽を行い針広混交林への誘導を目指しています。が、地形図および土壌図を活用し、土地の特性に応じた樹種の選定や作業方法を模索しています。平坦な地形かつ悪条件の土壌の場所には、従来よりも効率的で地表をあ



ブラッシュカッターによる地拵

まり痛めない特徴を持つ「ブラッシュカッター」という大型機械で地拵を行い、植栽労力の軽減を図るとともに、初期成長の良さが見込めるコンテナ苗を低密度で使用するなど低コスト化・省力化を心がけています。

今後は環境に適した広葉樹種の導入や、自然再生力を活用した低コスト造林手法である「掻き起しかきおこし」も行う、多様な森林づくりを進める予定です。

民有林との連携

朱鞠内湖上流域は国有林と幌加内町有林、北海道大学雨龍研究林が隣接して所在しており、森林の一体的整備や情報の共有、技術交流など連携しながら森林づくりを進めています。

幌加内町有林とは平成14年度に策定された「道北地域の森林環境創造ブランドデザイン」に基づき、水源林の一体的整備を行っています。取組開始から10年以上経過し、国有林では造林地の成績などの情報が蓄積されつつあるので積極的に情報提供しています。

また、北海道大学雨龍研究林とは相互の見学会を開催し、技術交流を進めています。

平成28年度は「掻き起こし」をテーマに見学会

を行いました。

研究林から頂いた貴重な助言を参考にし、国有林でも実行可能な技術は取り入れたいと考えています。



北海道大学雨龍研究林との現地見学会

地域の森林をより良くするためには、その地域の森林の管理者同士が知見を出し合い連携することが不可欠です

今後民有林との連携を深め、地域の問題点を共有しながら朱鞠内湖上流域の森林を再生するための森林づくりを進める予定です。